



1



2



3

1. V柱が迎えるコーナーエントランス
2. 憩いの場+災害広場となるダイヤデッキ
3. 疾走する鉄道を魅せるエントランスホール

ダイヤゲート池袋 概要

- 所在地 東京都豊島区南池袋1-16-15
- 建築主 西武鉄道(株)、(株)西武リアルティソリューションズ
- 設計者 (株)日建設計、(株)トーチコンサルタンツ
- 施工者 (株)大林組、西武建設(株)
- 竣工日 2019年2月28日

- 敷地面積 5,530㎡
- 建築面積 3,894㎡
- 延床面積 49,661㎡

- 階数 地上18階、地下2階、塔屋2階
- 構造 鉄骨造、一部鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造(中間免震構造)



詳細や他の写真などは
左記の二次元コードから
Webページに
アクセスしてご覧ください。

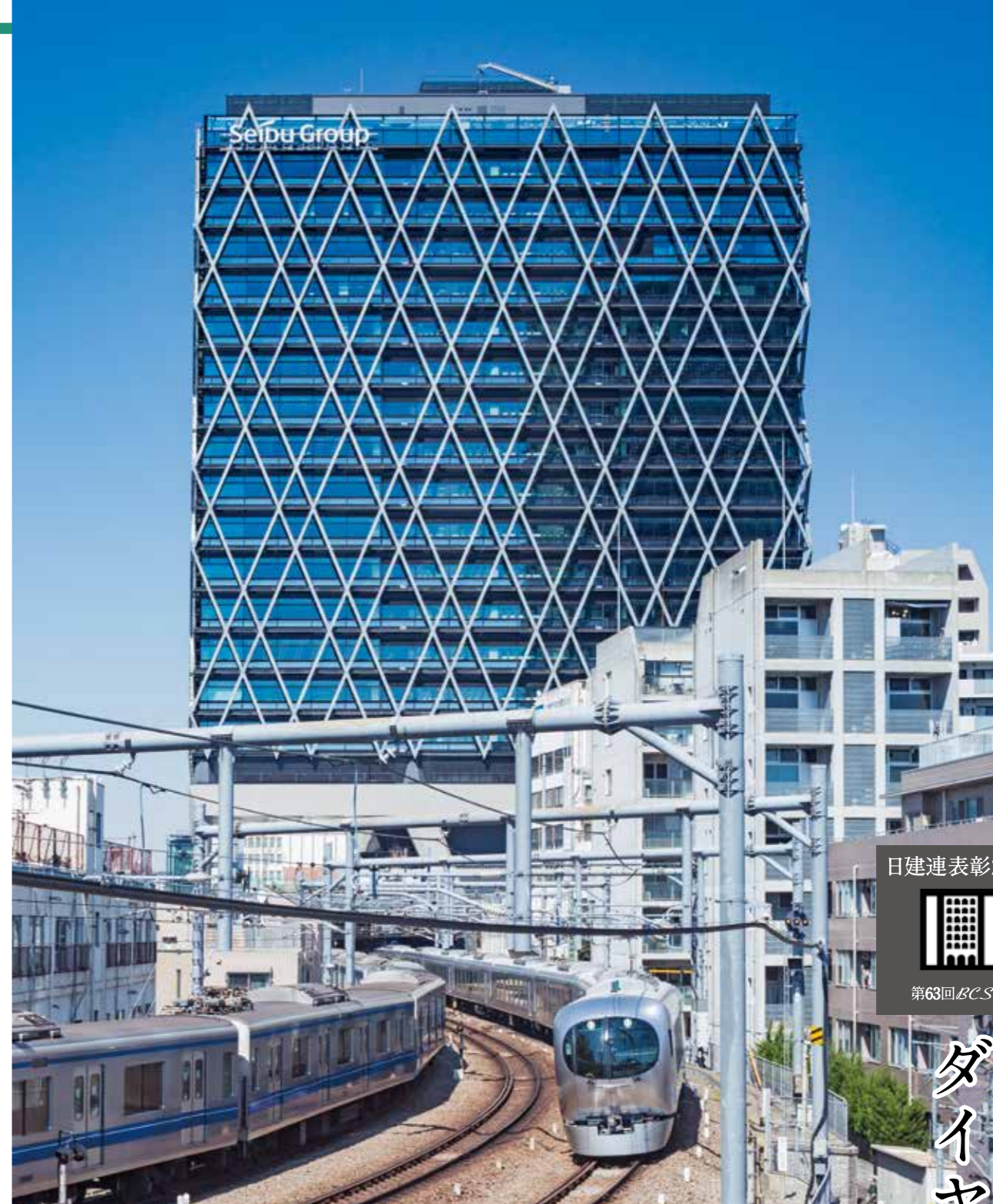
は、豊島区が策定した池袋駅東西デッキ構想を引き継ぐかたちで、鉄道線路上空に人工地盤のデッキを架け、歩行者ネットワークの南端の要の広場とするともに、災害時の一時滞在施設として登録されている。

また、このデッキにより軌道土地を建築敷地化し、既存敷地と一体化することにより、従前の敷地だけでは得られなかった大型のオフィスプレートを確保している。オフィスフロアに入ると、外周柱の少なさと細さに驚かされる。外殻ブレースの効用によるものであり、層間変位の少ないこの構造により外装の横連窓は上下二辺支持としており、方立のないワイドビューが印象的である。外殻ブレースとサッシウの間にはメンテナンスバルコニー分の離れがあり、斜材が煩雑に感じられることはない。

平常時の省エネと災害時のレジリエンス機能の両立という点では、ペリメータに配置されたウォールスルーユニットに工夫がみられた。線路上空にあるため、騒音対策や空気質確保の面から外気を直接とり入れることはせず、室内空気を使うシステムで省エネ効果も得ている。災害時には、自然換気の給気口になるという。これらの工夫により、コロナ禍での換気優先時でも実績値でZEB Readyを達成している。二〇二二年四月から一〇〇%再生可能エネルギー電力を使用開始したことに加え、BIMを活用した設備機器管理支援ツールを使い、建築主・設計者・施工者によるコミッションング会議を継続し改善を重ねており、カーボンニュートラルに向けた一層の効果が期待される。

施工面では、鉄道線路上空での人工地盤架設工事に加え、営業鉄道の直下を貫くトンネル工事も並行して行っている。線路五線分を横断するトンネルであり、敷地条件からこのトンネルをつくって駐車場の出入口を確保せざるを得なかった。鉄道事業者である建築主、設計者、建築・土木施工者のフロントローディングによる検討なしには実現できなかった工事である。

幾多の難条件を克服して実現できた本建物が、地域の念願である東西デッキに接続され、歩行者ネットワークの基点となり池袋駅ゾーンの先導となることを期待したい。



日建連表彰2022



第63回BCS賞

ダイヤゲート池袋

選定理由

【選考委員】
伊香賀後治・篠原聡子・大西正修

ダイヤゲート池袋は、どこから見られてもそれとわかる姿で建っている。四周を覆う鉄道ダイヤグラムを模した外部ブレースは、無垢の鉄骨部材により地震力を一〇〇%担っているとは思えない程、精緻に組まれている。土木的なスケールのV字柱は、鉄道線路を跨ぐかたちで、オフィススパン一八・三メートルの鉛直力を鉄道線路スパン二七メートルへとトランスファーしている。困難な建設条件を、鉄道会社ならではのオフィスに仕込んでいく思考のプロセスがその姿に表現されている。

本建物の建つ池袋駅周辺の抱える課題は、鉄道により分断された東西のまちの歩行者ネットワークの拡充であり、ターミナル駅に必要な災害時の帰宅困難者受け入れ施設の確保である。ダイヤゲート池袋

BCS賞

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計・施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2022年で63回を数えました。

《日建連表彰2022 第63回BCS賞受賞作品》 熊本城特別見学通路 / 熊本都市計画桜町地区第一種市街地再開発事業 / GREEN SPRINGS / 国立競技場 / THE HIRAMATSU 京都 / 三栄建設 鉄構事業本部新事務所 / ダイヤゲート池袋 / 谷口吉郎・吉生記念金沢建築館 / 東京大学総合図書館 / 東京都公文書館 / 長野県立美術館 / 延岡駅周辺整備プロジェクト / Hareza 池袋 / 横浜市庁舎 / 早稲田大学37号館 / 早稲田アリーナ